



## 弁天小学校



弁天小学校は、昭和45(1970)年に磯路小学校と波除小学校から分かれて誕生し、今年6月に41年目を迎えます。

今回は、弁天小学校を昭和55(1980)年に卒業された7期生の近藤馨さん(現PTA会長)にお話をうかがいました。



近藤 馨さん

入学当時、小学校の校舎はほぼ現在と同じ姿になっていました。校内には、十字の形をした「十字池」があって、その周囲でよく鬼ごっこをして足を突っ込むなど、年に一度は池にはまりました。勢いあまって頭から池につっこんでしまった友だちもいました。冬になると十字池には厚さ1センチぐらいの氷が張ることがあり、それを落とさないようにそろそろと教室まで運んでいって教室を水浸しにしました。雨が降って校庭が使えないときは池のそばに目印の赤旗を立てられて、「今日は体育の授業がなくて残念だなあ」と思ったことなど、池にまつわる思い出がたくさんあります。



工事中の十字池

また、校庭の一角には、今も弁天山という小さな山があります。2期生の森田晴美さん(PTA会計監査)の話では、最初は木が全然生えていなかったらしいのですが、私の頃は今以上に木が茂っていました。桜はもちろんのこと、ダイダイやつつじ、すすきなどいろいろな植物が植わっていたので、理科の時間にはよく「弁天山に見に行きましょう」ということになりました。弁天山では、花や木だけでなく、青虫やカナブンなどの虫がいて、夏には必ずセミの抜け殻が落ちていました。写生会のときは近くの弁天埠頭に行き、向こう岸に見える此花区の工場街と埠頭に入ってくるフェリーや貨物船の絵を描いたのを覚えています。当時の弁天埠頭は貨物船がたくさん出入りしていて、船が入港するときには学校まで汽笛の音が聞こえてきました。



地下鉄の残土でつくられた弁天山